



JAA通信

日本自治ACADEMY会報誌

Vol.2 2008年6月発行

<http://japan-a-academy.com/>

[発行]

NPO法人 日本自治ACADEMY
北海道下川町西町8番地2(株)谷組内
郵便番号 098-1205
Tel:01655-4-2595
Fax:01655-4-2596
E-mail:info@japan-a-academy.com

(JAA 通信について)

Japan Autonomous Academy (日本自治ACADEMYの英語表記)の頭文字をとり名付ました。当ACADEMYの活動内容を広くお知らせするために、年2回程度発行する予定です。皆様から掲載文やイベント写真、読後の感想、紙面づくりへのアドバイスなどをお寄せいただければ幸いです。

Contents

- P1 巻頭写真
殿様街道ウォーク(福島町)
- P2 日本自治ACADEMY2008年度事業計画
- P4 寄稿
「”你好”中国派遣団の思い出」
渡部 美智子(日本自治ACADEMY監事)
- P5 寄稿
「今こそ対話が必要な時」
和田 順義(石狩市議会議員)



殿様街道ウォーク(福島町) 殿様街道ウォークは、松前藩の殿様をはじめ円空、伊能忠敬、土方歳三など歴史上の人物が多数通ったと言われる約7kmの道を、古(いにしえ)に思いをはせ、巨木ブナや可憐な花々等の自然に触れながら散策するイベントです。第8回目を数える今年、5月3、4日の両日に好天のもと開催され、参加者の皆さんはウォーキングで快い汗をかいた後、福島町千軒地域で栽培される香り高い「千軒十割そば」を食べ、北海道無形文化財「松前神楽」を觀賞するなどイベントを支える地域の方々と楽しい一時を過ごしました。

日本自治ACADEMY2008年度事業計画

日本自治 ACADEMY は 2007 年 5 月 25 日、NPO 法人として北海道から認証を受けました。北海道の各地域で実践してきた地方自治の取り組みや制度などをアジアをはじめ海外などにも広く普及し、交流や連携を通して地域の国際化や地域活性化に寄与することを目指して活動しております。今後、アジア地域の学識者、政治家、行政職員、留学生との連携や研修会・講演会の開催、研修ツアーの開催などの具体的な事業を関係機関の協力を得ながら、実施することとしております。会員数はまだまだ少ないのですが、多くの方にご賛同いただけるよう地道に活動を展開していきたいと考えております。

この4月19日に役員会を開催し、2008年度において、留学生を招いたフォーラムを開催するなど、次の事業を実施することとしました。

アジアの留学生と語ろう開催事業

【主催】

◇ NPO 法人日本自治 ACADEMY

【共催】

◇ グリーンシード21（道内の市町村議会議員有志で構成する団体）

【事業内容】

◇ 事業の趣旨・目的

近年、北海道の産業や自然、風土、教育環境などに魅力を感じ、アジアから多くの観光客や、ビジネスマン、留学生が北海道を訪れています。北海道がもつ潜在力を一層引き出していくには、アジアにもっと目を向け、人的交流やビジネス交流を拡大していくことが急務であると考えます。

本年は北海道洞爺湖サミットが開催され、北海道の更なる飛躍に繋がる絶好の機会です。

そこで、有識者の方からテーマに基づき基調講演をいただくとともに、現在北海道で学んでいるアジアの留学生等に自国の現況（環境、ビジネス、観光、地方自治など）や北海道の魅力、生活上疑問に思っていることなどについて語ってもらうことにより、参加者には、日本とアジア諸国の文化の違いなどを学んでいただき、今

後の北海道とアジアとの交流発展の一助にしたいと考えております。

◇ 事業の概要

① 日時 2008年9月13日（土）

13:10～（3時間程度）

② 場所 札幌すみれホテル

（札幌市中央区北1条西2丁目）

③ 参集者 アジアの留学生、行政関係者、大学関係者、経済団体、一般道民など

④ 参集人員 100名程度

⑤ テーマ （仮題）『アジア地域との結びつきをより深めるために～留学生からの提言』

⑥ 日程

・ 基調講演 13:20～14:20

講師 月尾 嘉男 東大名誉教授

演題 『アジアに目を向けよう』（仮題）

・ パネルディスカッション（パネリストはアジアの留学生数名）

14:30～16:00

・ 交流会 17:00～18:30

【事業実施による効果】

◇ 留学生からは今後のアジアとの交流を推し進めていくうえでの大きなヒントになる発言が出てくることが期待できると考えており、参加者はアジア地域の環境や、生活文化、自治の姿などを知ることで、

① 北海道へ訪れるアジアの人たちが安心して過ごせるための環境づくりや、態勢整備

② 北海道とアジアとの人的交流などの拡大に向けた各種事業の立案実施

③ 北海道とアジアにおける相互の情報発信の機会拡大

など、地域や団体において、ソフト面での具体的な活動に繋げていけると考えております。

◇ 日本自治 ACADEMY では、本事業を契機として、北海道が、将来、アジア地域の学びの場となるよう、自治制度の学習などをメインとした「スタディ・ツーリズム」の構築に取り組んでまいります。

【その他】

◇ 道内各大学や関係機関に、「アジアの留学生

と語ろう」開催に向け、協力要請を行ってまいります。

◇アジアに関する資料（データ）を整理し、参加者に配布することを考えております。

アジアマップの制作

アジアに関する様々な基礎的データなどが一目でわかるものを常に持ち歩きたいとの考えから、携帯版の『アジアマップ』を制作することとなりました。地域づくり団体「北の星座共和国」で制作している『北海道市町村マップーP L A Z A i n 1 8 0』のノウハウや、国のホームページ等を参考にするとともに、行政機関からアドバイスなどもいただきました。

マップの表面には、国名、首都などを表記するとともに、国旗も掲載しております。裏面には、それぞれの国の人口、面積などの主な指標を記載しております。

マップは9月13日に開催する「アジアの留学生と語ろう開催事業」で参加者の皆さんに配布するほか、当 ACADEMY の収益事業の一環として希望者へ頒布することとしております。

英語表記・ロゴマークの決定

当 ACADEMY の英語表記を Japan Autonomous Academy（略称：JAA）としました。また、当 ACADEMY の顔ともなり、名刺、会報誌、アジアマップなどに使用するロゴマークも決定しました。今後、様々な機会を捉え、積極的に活用していきたい（ロゴマーク）と考えています。



スタディ・ツアーの取り組み

関係団体と協力連携を図りながら、1週間程度の教育プログラムを作成するなど、アジア地域の地方議会議員や行政職員の方々が道内の自治の現場で滞在研修するための受け皿づくりに取り組むこととしております。最初のツアー開催は来年（2009年）2月の予定です。

この2月のツアーでは、アジア地域の地方議会議員、行政職員、学生の方々に、本道の自治体職員や地方議会議員との交流をはじめとして北海道の自治を事例として学んでもらう糸口に

して頂くとともに、今後のツアー継続のための関係者とのネットワークづくりを図ることとしております。

当 ACADEMY では、将来北海道がアジア地域の学びの場となるよう、自治制度の学習などをメインとした「スタディ・ツーリズム」の構築に取り組んでまいりたいと考えているところであります。

JAA通信の発行及びホームページの開設

当 ACADEMY の活動内容を広くお知らせするために、年2回程度、会報誌「JAA通信」を発行します。読者の皆様から掲載文やイベント写真、読後の感想、紙面づくりへのアドバイスなどをお寄せいただくこととしております。

また、ホームページも開設しました。

（URLは、<http://japan-a-academy.com/>です）

人材データバンクの検討

当 ACADEMY と様々な団体との連携を深めることを狙いに、2008年度に計画している各種事業の実施状況を勘案しながら、地域で活動する団体、グループなどに講演会の講師を紹介する人材データバンク事業実施の検討に着手する予定であります。

会員募集

当 ACADEMY が行う事業について、趣旨に賛同頂ける方を一人でも多く増やしながらか、活動の輪を拡げていくため、広く会員募集を進めることとしております。

*会員の募集にあたりましては、3種類の会員制度を設けております。

- 個人会員 年会費／ 3,000円
- 団体会員 年会費／10,000円
- 法人会員 年会費／10,000円

（法人会員については一口単位何口でも）
申し込み用紙の送付など問い合わせ先は次のとおりです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

◇問い合わせ先／電話：01655-4-2595

（日本自治 ACADEMY 事務局）

寄稿

「你好」中国派遣団の思い出

日本自治ACADEMY監事
渡部 美智子

「見る！」「聞く！」「学ぶ！」
～近くて遠い隣国へ

中国の今日を「見る！」「聞く！」そして「学ぶ！」～心のふれあいを求めて～というテーマを引っさげて私たちは北海道と北海道青年婦人国際交流センターの平成3年度派遣団として10月24日北京に向けて飛び立った。団長・副団長・通訳・団員の総員15名で、つんのめるほど前向きで好奇心の塊のような団員を見守り引率して下さったのが副団長の角井さん（日本自治ACADEMY副理事長）である。

出発前に渡されたスケジュール表はなんと白紙に近かった。それには国際交流センターの担当の方も戸惑いを隠さず「悪いようにはしないので、とにかく来、来」とのこと。それには理由があった。この年、北海道と黒龍江省は友好提携5周年の記念すべき年で、同じ時期に横路知事をはじめ政界・財界にくわえて一般の人400余名がハルピンに集うイベントがあったのである。私たちも北京、瀋陽を経て合流したが受け入れ先の黒龍江省外事弁公室は我が訪問団に手が回らなかったのである。

私たちはカルチャーショックをやわらげるため、先人たちが中国人気質の一つが慢慢的（マンマデー）だと言っていたことを思い出し、「ゆったり・のんびり」の心で行こうと取り決めて、事あるごとに「マンマデー」「マンマデー」を唱えて心の平衡を図ったのである。我が期の会は、正確な意味を確認しないうちに『慢慢地の会』と命名し親睦と事後活動を今も続けている。

私の始めのびっくりは、成田から中華航空に乗り込み、対面で座したボブヘアーのステュワーデスさんが離陸したとたんコクンと居眠りモードに入ったことである。そして飲み物サービスになった時、後ろの席でコカコーラを注文する人に、間髪いれず「没有（メイヨ）」の鋭い応答。「そんなもん、あるわけないしょ！」中国に突入したことを実感した瞬間である。今でも「没有（メイヨ）」を聞くとあの情景が思い出される。

僅か三時間の飛行で北京へ着いた。なんと近くて遠い隣国だったことだろう。胸躍らせ時計を一時間調整して降りた空港は薄暗く入国審査官は軍服で、パスポートを投げ返された時は、どんな旅が始まるのかと緊張した。やっとたどり着いた出口には黒龍江省外事弁公室・日本処の韓子宝さんのやさしい笑顔の出迎えがあった。韓さんは全行程に同行し、私たちの課題や好奇心解消にそれとなく協力して下さった。その後、幾度も来道されていらっしゃるが最近は無沙汰である。



熱烈な歓迎を受ける派遣団一行

日本自治ACADEMYの活動に
寄与できれば幸い

広大な中国のほんの一点を見て、聞いて、学んだにすぎないが、この思い出を書くにあたり帰国レポートを改めて読んで、それぞれのテ

マ、教育、文化、福祉、医療問題等をしっかり仕上げていて、しかも、今抱える中国の課題に言及しているのは見る目が確かだったことに驚く。トイレに入ってもメモを離さず、お掃除のおばさんに聞き込みをする姿を思い出す。

みなさんが帰国後、それぞれの分野で活躍していることが頷ける。市議会議員になった方、企業経営に携わっている方など。私の経験もアジアに眼を向けている日本自治 ACADEMY の活動に寄与できれば幸いと考えている。

この旅で中国に恋焦がれる中国中毒にはほぼ全員が患った。お正月は中国で迎える方もいらっしやる。私もかなりのものだったが再訪は叶っていない。

今秋も『慢慢地の会』は、見る、聞く、そして睦む会を旭川で開催する。この仲間たちと出会う機会を下さった北海道に改めて感謝！

そして今尚余震の続く四川大地震災害の一日も早い復興を願って 再見！！



寄稿

「今こそ対話が必要な時」

石狩市議会議員
和田 順 義

日韓両国の相互理解の重要性を認識

今年4月26日から29日まで、石狩市と姉妹提携をしている韓国ソウル市の青都ライオンズクラブ創立記念式典参加のため訪韓しました。

今回の訪問では千歳からの直行便で釜山に入り、タワー、市場などを見た後、慶州で宿泊、翌日は世界遺産に登録された仏国寺、古墳群などを巡り、夕方新幹線でソウル入りし、式典に臨みました。

北海道の風土を少しでも感じていただこうと

考え、これまでは免税店で購入した酒や煙草が主だった土産に代えて、昨秋韓国で翻訳刊行された石狩育ちの新進気鋭の作家朝倉かすみ氏の第72回小説現代新人賞受賞作品「肝、焼ける」を写真と直筆のサイン入りの色紙をはさみ全会員に贈りました。

これまでの私の10回の訪問では、数々の史跡や民族村、博物館、資料館などを案内していただき、韓国の歴史、文化に触れることができました。また、赤色灯を点滅した韓国陸軍のジープに先導されて基地に入り国境の河越しに北朝鮮の兵士の表情を見たり、北側から掘ったという地下トンネルに入ることによって韓国の置かれている現実も知ることができました。

特に希望して見せていただいた独立記念館は、他国からの侵略と抵抗から独立に至る展示がなされ、修学旅行で必ず一度は訪れるという小学生たちが、涙を流しながら拷問を再現した人形を見入っている姿に改めて両国の相互理解の重要性を認識させられました。

相互訪問を通し会員同士の絆も強まり、日本語が堪能な会員以外とも片言のハングルや英語、時には筆談で意思疎通を計り、琴線に触れるような対話も出来るようになってきました。

選挙を通じて学んだ対話の必要性和大切さ

私の選挙の話になりますが、昨年5月、四期目の市議選に挑戦しました。



諸悪の根源は選挙にお金を掛けすぎることと考え、一票一万円と噂されていた汚職による町長逮捕直後の出直し選挙へ立候補、一期目は24,948円の費用

自転車で選挙活動する和田氏

で図らずも当選させていただき、以降、二期目 22,349 円、三期目はポスターをコピー機で作る 918 円、四期目は合併による市域拡大もあり 2,032 円で選挙戦を終えることができました。

後援会、選挙事務所、選挙カーの無い選挙はひたすら対話の繰り返しでした。自転車を停め初対面の誰とでも話すことができるのは選挙のときしかありません。4 回いただいたチャンスは対話の必要性和大切さをしっかりと教えてくれました。

金をかけない選挙はあらゆる組織や人々からの自由につながります。一期目当選直後に入会した道内の議員等の有志で構成する「グリーンシード 21」は特定の政党に属さない私にとって豊富な知識と経験に基づく強固な意志を持つ人々の集団として対等に自由な対話ができる大切な場となっています。

対話を通じ環境問題の解決やアジア諸国との良好な関係構築を願う

過日テレビで、地球温暖化の急激な進行の結果、海流が弱まり異常気象が続発し北半球が氷河期になるという衝撃的な映画を見ました。現

在読み耽っている地球環境に関するどの本でも危機的状況が加速度的に迫っていると記述されており、石狩浜の海浜植物の植生や水生動物の変化なども不安と恐怖を感じさせるものとなっています。

地球環境が急速に悪化している現在、一地方議員として何ができるのか、何をすべきかと自問自答を繰り返しながら模索を続けています。ある研究所が 2001 年に作成した資料によると、世界の一年間の軍事支出は 78 兆円にのぼっており、その三分の一の費用があれば、飢餓と栄養失調の撲滅や土壌の不毛化、きれいで安全なエネルギーや水の提供、地球温暖化の防止など人類が必要としている主要なものや、人類が直面している環境問題の解決のための様々な世界的プログラムに充てられるとのこと。

今ほど対話が求められる時はありません。世界、とりわけアジア諸国との良好な関係の構築のためにも、また、目前に迫っている地球環境の悪化に対しエコの推進など身近な取組を推し進めていくためにも、様々な場面で、お互いに対話を通じ問題解決を図っていくことを願っております。

編集後記

今号では、お忙しい中、渡部美智子さん、和田順義さんに掲載文の寄稿を引き受けていただきました。ありがとうございました。渡部さんは平成 3 年中国へ初めて出かけた時の派遣団の班長さんでした。今も気配りの頼もしい女性です。和田さんは幼稚園の園長先生。いつも子どもたちの未来を考え行動している熱血漢です。

次号以降でも、専門家や地方議会議員の方のご協力をいただきながら、北海道の地方自治の現場などについて皆様にご紹介していきたいと考えております。

先日、北翔大学を訪問した時、校門前はオレンジ色のツツジが満開。若人の希望に満ちた表情のように元気に美しくそして鮮やかに咲いていました。

(編集責任者：副理事長 角井)